

嘉陵記行

三篇人

和書門			
二九	一〇	一	類
二〇	七	四	架
冊	函	號	類

內閣文庫		
二九	二〇	和書
一〇	一	類
二〇	七	架
冊	函	號

內閣文庫	
番號	和 29201
冊數	20 (11)
函號	177 1055





四町人家
のまあり
林の原
の方
のあ

六九三番

明治十五年購求

文化十二年九月八日付

この法書は

に依りて

と原を

に原所

又の

中

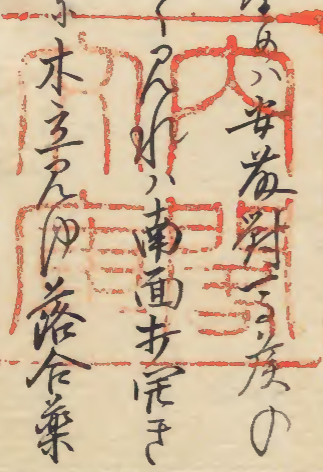
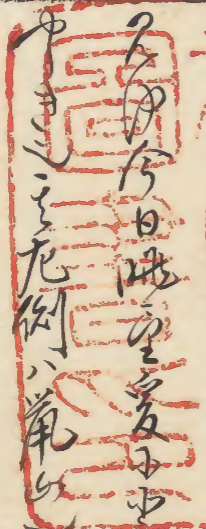
と落合

王院の

と落合

王院の

と落合



支使い美
 州の内の地
 名をさし
 二つあり
 一は
 二つあり
 一は

支使を名づくこの地を平きよのこを穀物とあれふこは推
 名河商人の家小貧しきこは嵐山の西南がこは海にたふ小作
 七曲の地と云吉田森谷村七曲にて行故を云々
 程のくたふた行り高古田村小作と云高古田村の地
 世のなまきと林泉家小由徳
 程ゆるを岐路行りたふたこは高古田村
 ありおふりも東言地山に石橋行り用水道と横きうて東に流る
 爰より下板橋平尾小作と末に流の川に水とあり水深は中荒井
 一本沃府中と云々玉川行り高古田村程ゆるを又ふ小
 ゆく程と云ふ小作とありこは高古田村程ゆるを又ふ小作と云
 上板橋

西へ横折してゆき中荒井村入口に石橋行り用水路の右とがゆる中荒
 井村と行奉り半里斗乃のたふは練言風平石たふ中荒井村
 の南より今川丹後寺知行の石の地と云爰も用水路のたふと流る
 乃り石橋行り石たふ引今商家行り土人の練言六平石と
 今川の知行の石と収納甲乙の地と云今川今川の地と云
 神祖神意と云々一は高古田村程ゆるを又ふ小作と云一は僅ふ小
 秩父山の小岬と云々畑と草花咲く言のゆ一推名河の地と
 云々及谷系まき一深谷傍桑がまき一志む一落桑と捨小真
 有貴井村の地乃たふ小子の権現の社行り林本の間小弁と云一商人

其命也三月七日より廿日迄年々定帳して大士の像を拝せむ又是小
ませし人を一審せしむ

立て侍りてはまゝに成侍つてはねあつてはまゝに侍りては
以て侍りてはまゝに成侍つてはねあつてはまゝに侍りては
又侍りてはまゝに成侍つてはねあつてはまゝに侍りては

此社の廣きおれり
又侍りてはまゝに成侍つてはねあつてはまゝに侍りては

又侍りてはまゝに成侍つてはねあつてはまゝに侍りては

いづれ
まは不
をを
ふを
ふを

又侍りてはまゝに成侍つてはねあつてはまゝに侍りては
又侍りてはまゝに成侍つてはねあつてはまゝに侍りては

又侍りてはまゝに成侍つてはねあつてはまゝに侍りては
又侍りてはまゝに成侍つてはねあつてはまゝに侍りては

又侍りてはまゝに成侍つてはねあつてはまゝに侍りては
又侍りてはまゝに成侍つてはねあつてはまゝに侍りては



井の流
流し小
町下
落谷村
七曲り
七曲り
上り根
所の方
行へ

跡生七日追せ九鼓寺で清水乃糸と出石坂直温、永井加後の三子お
伴小高田乃三場の小例れたと物よ向り言田本名戸塚村と云は也
廿七所乃の傍小寺りちのなき門前石碑を戸塚村と形
付つらやれと右の方林松と百人氏有程りく橋り戸塚村乃橋
井の流乃流れささる共さ三夫斗乃の右橋乃と右小葉沙堂林
の中小言きと交小りり橋より南小り乃りり一里斗とて大久保百人
小出ると云橋の東と左め小落谷村系五院の敷三ゆさりり
古上丁ともぬ屋り橋と戻りりり大古田三丁斗りり山に
人家はあや酒肴の家松ありこれ仰馬次の場もいいつく思

落谷谷之根
と唱り焼場
巴谷新町西
ミアリ又目黒
村ミ落谷
と以焼場
アリ三本白
名何故
て不知

此れ小人家のまおより東よゆけ七曲り小出ると云山をせり小人家の
おとささるが古の方小まうく古歩斗行の枝り一とあまり
爰より小ま轉りて山徑よりこまきり又人家り橋との
おより西南小向りり上落谷村乃の北まきりり最勝寺と
云程かりりも大華陽を路傍小垣ゆじりりてちかえん
入口ニッ何り勝二枚と建く焼場法界寺と云付家城落谷谷りり
こられたの南小りりり新井村乃と云法界寺れ出るとれを
狼谷より小宗子の死つとて程もまきと云程かりりも大古畑を
横きりて海りり板橋と云は橋の向り高田村と云上落

合村又少し北に渡りて石地流しとてこたうた小行を新井村集
 十丁斗北より氷川乃社無前斗山正位と地は右小氷川の敷る
 とたうた小六情乃敷るゆ屈申と林木此畠をかき取り
 氷川乃社乃社改出社の津敷つる九尺四方とて三方吹ぬき
 盛なり内陣もさう三尺尺小石色小まき鹿たてつる五飛と並
 ころとて社乃こころ小古絶の大雲一むりつる解小本
 枚板の乾板をかき取りて生さく社と東に向いてまきる小茶小香
 飛り石階七八級つる東乃小石向く山径とりること十
 四の百もて松と板と生すつるりり泉湧出流定石ありと

氷地源三三寸斗鏡の如くまき庭の石とる庭とてとて路
 角一爰小大木を松とつるれと産す葺三四歩圍サ三三歩
 流の小石よつくるまきまめせと松い流流か敷生り九尺と石
 小八九尺とあつて附つる三四の附つるとはつるりりは森の親
 もあつてまき三寸斗形埦小ぬりて枚多積りて家産すそに
 社の赤と小小樹と小笹ととて分りけは深甚やとておん
 きつる是のよま出小徑とわれ田りつる向小松松とくつる心
 西北がえりりりて田乃石成り少りのりて又われは橋りり
 石神井の水小りつる

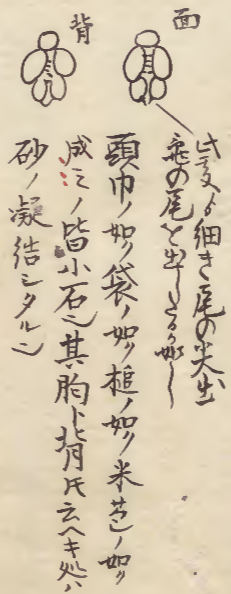
水南流て下落合村より
 井の流の水と合流り

けしう少りけけ

大黒虫
形州相
生モアリ
ト或人云

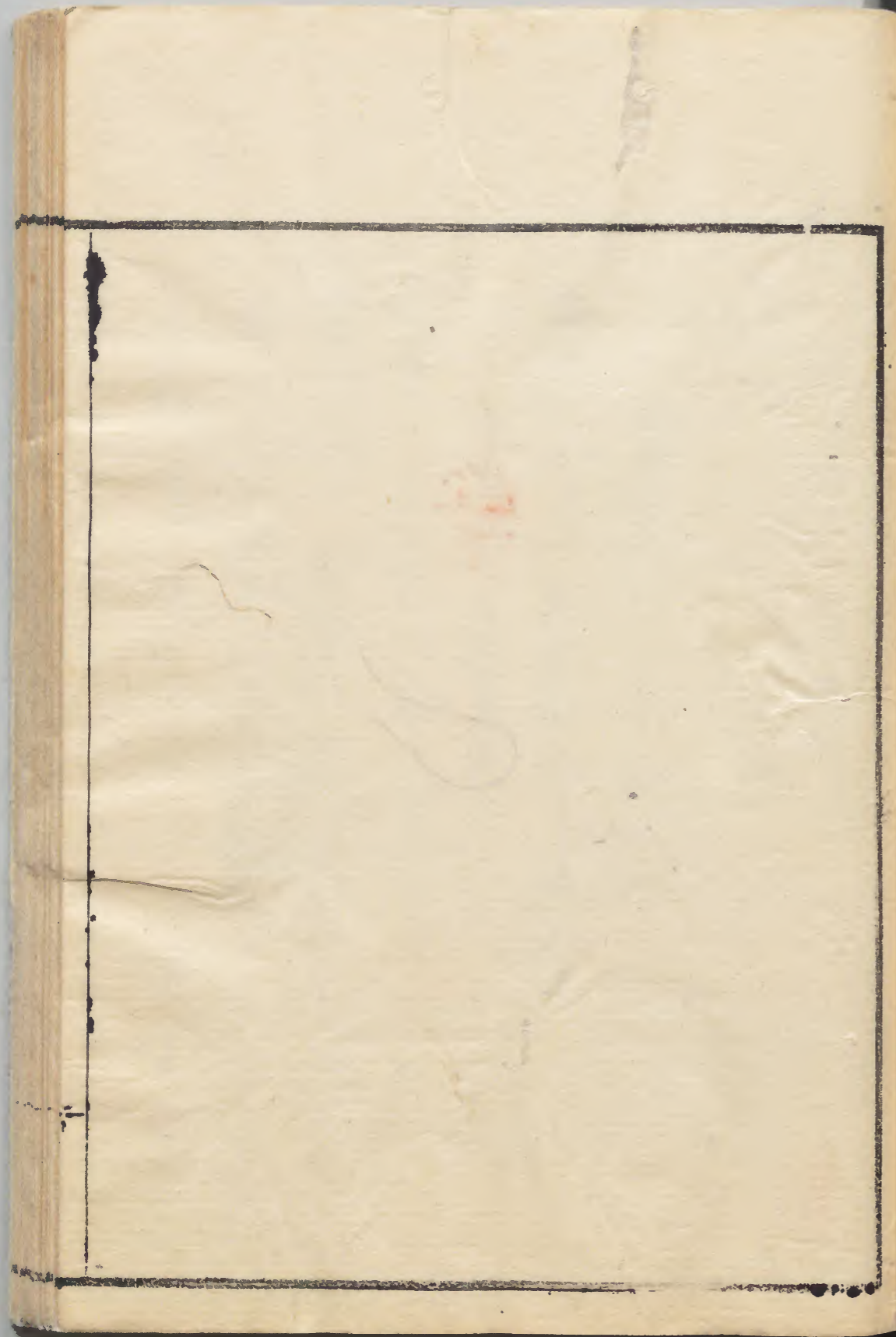
社何の神といふとあるはたう東に向くは人家多
くふる程がけりてある古田村のたれ南側ふ出されう東
するに数丁とて推名所の本所なり

氷川社御手洗大黒虫ノ島



右の大黒天の形にたるもの取中の辺りへ石を粘す水を去るべしけれ
自ら石とされ落内小在菰死され成りてそ菰の形

此稍長すれはそ窠と脱さく見ゆ大なるは窠なり大左の如くあるを
窠がくして水底に石なる小溜り居る
廻るるがけり捕ても動は死する如し人交月二つ中ある此虫を
索する小捕りてはかき分りて小まある必得難かりんをてとひ
計し小葉より葉也考ふる小冬虫夏草の類とて寒きは多く夏に
れは化しきや但大なるもの窠がくは長さ二寸斗がらふと年と感
死せるもや計知るべし
或人云南郊廣尾の原に清水流るるも此虫居りて云未と尋
糸見





吹上戸田板橋等方位畧圖

上高田村土屋ボコノ変々々々菜とモモノヲ柵中在サ二天正五寸
 掘付畑の土と畦より切落して採りたる馬ノ小土堅き地
 此物を生すべし決りし生すとも物作る節ち人の
 細松を菜とてこの水子洗をてり
 直温証々石坂旁右馬の
 推任只任土人指古初遙屋松杉家
 行々歳度間前程一里過平猶一里

文化十三年後の八月廿日次上乃親世書訪く傳々んとみまの禪寺
 て窟と本に魚うを夜板をやり向ふ板と上く傳無院若
 三百板多う松平橋古板の中程より西少くおちおれく大塚
 多う出浪切不動より此これハ波路を東のハてうう小向く
 行そた古畑りり畔乃落は月の口乃風向ふあれは皆ん
 けしうきれと秋深き詠免程くおひれハ繩子とま斗も
 行くくんとあふれり一顧れは南小葎玉吉れ小十廿五丁の禪
 小んゆ北を原めえか賀家板板板橋乃下障くまは
 東えはさる是も十廿五丁の禪と葎玉寺とか賀家の板と

の屋敷くお屋むるる三十丁は不さくおさる繩子と行そ
 橋る小氏戸ある変小むるはれ西側小石の道と流るり
こよりあふれは言也
出る一里より此は言り 傳無院よりは止一里りりむりー橋北市小中け
一里亦有くとも繩定下線るより次上 爰よりあり斗行く九右田面ん
一里末ありりり
 後此変小道を横切く用水流るこの用水は推名所より 水末ハ流の川
流る玉川の支流あり
 此の川と云はれは例小禪寺の社なりこより道東面ハく東
 川より下板橋の方出ると云西ハりて小岩大矢口より所と流く
 上板橋道の左側人家あり 道の南側小東高野山小杉たけりかた
皆農と高とぬ
 下れは右田石神井川南より水は流る石橋やうは下ウ橋橋の長サ三石

橋の在方言がゆりてつひに絶

下練馬村 者あり人家数 道此小例小王子行 十餘村出王子行の

宿の南側下大山 あり 東言此山の喜多山 言井戸出大山 坊あり 本 寺小すみ温飢

一様や雲々去及の岐小石観音立 あり 大古小仁王 あり 以の比

達之 あり や あり 有 あり 石此 あり 吐 あり 文 あり 字 あり あり あり あり あり あり あり

年代 あり あり あり 幕 あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

川 あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

秩父武甲山 あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

人 あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

北山方降ル
坂ヨリト云
以テ後ヲ来
例ノ山標相
テト云ハ
シラク持テ
ト云ハ
吐テ
黎若光山
アリ
光南
葉ノ秋標
ニ似
倍標
在
ナシ
作
自朝
アリ
温採

其下小字年を神とまはるとして小字教の所にも廣くして

文永の頃此の地をいふと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり

小赤塚 氏家 村の中 あり 西 あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

長塚と土人伝に大木と云ふ後、十六町もあな一この塚山
今ハ畑塔成り、赤塚の地、續きのまてうらとた古、皆自然乃堅固、此山此
の細道をめぐりてゆけ、心きくと新れて一條、此田の申れ、
ハ丁中、行を

次上観音 新座郡 新座村 観世音の山下に在る石階と上る、三十三級、して

茅ふる二五、門のり、入るた、ハ間四方斗の坊、乃座、あり、東南ハ
向く、建、うり、きう、戸、さ、ゆ、く、人、も、れ、本堂、や、さ、く、四十年、斗
むり、建、うり、と、云、座、上、ハ、や、り、く、き、に、板、の、概、の、丸、う、ら、り、く

は堂明和
九年成云

隔子唐戸あり、戸帳あり、こゑと観世音、新座郡 洋れ、は、あ、ハ、堂、あり、此、僧
く、一人、こゝ、小、堂、あり、ゆ、り、非、同、傳、り、と、務、禮、も、ハ、此、堂、の、内、小
登、と、香、して、お、の、小、袖、と、ま、き、と、巻、く、さ、く、板、と、寄、た、る、堂、の、板、木
本像、り、何、も、同、ハ、是、ハ、十、年、お、け、堂、と、建、る、と、善、く、勸、化、教、多
の大木を、集、人、ま、を、信、して、こゝ、小、山、あり、流、小、再、建、の、本、社、と、遂、に、ふ
か、の、像、あり、ま、と、巻、く、の、板、と、寄、た、る、本、と、同、あり、時、き、う、の、ま、れ
と、こゝ、り、一、堂、あり、子、孫、今、程、苗、木、あり、と、姓、名、ハ、何、も、い、ひ、た、れ
と、こゝ、り、ハ、山、ハ、眺、望、あり、と、い、も、お、れ、上、赤、塚、の、山、口、と、り、る、交、の
ゆ、め、ふ、く、く、れ、ハ、却、く、次、之、堂、あり、戸、田、の、り、く、庵、き、道、と、せ、一、堂、

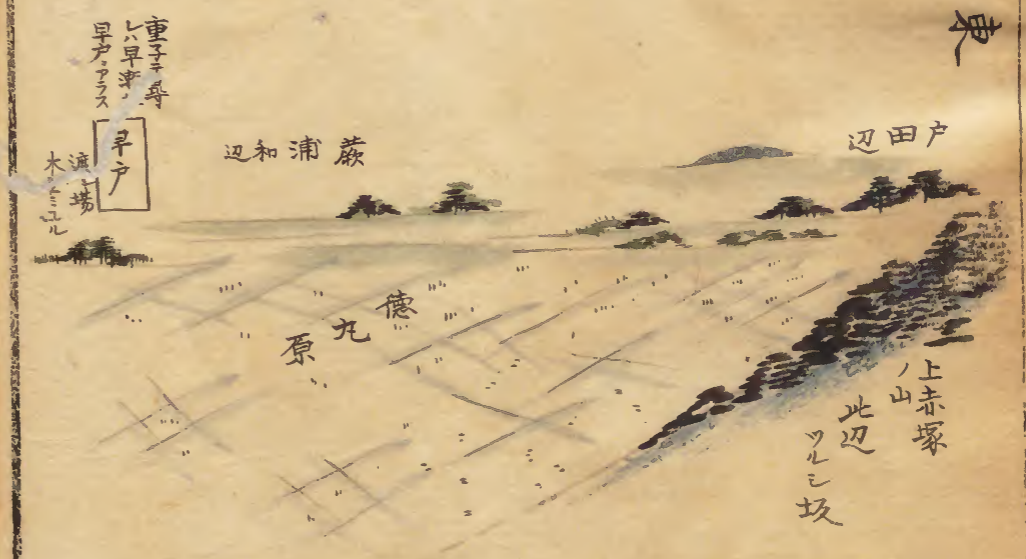
田の申及を束ふむい〜日ふさき本立を目らふゆゑに手帳の後
りふ出つ川を北へうつらうつらして川除の境の上段束ふり九一里斗と
戸田也。孫馬つうて六家うはだぬり同くねぬ屋とり
こつあ〜申の別斗さま

宗の時萬安橋を作りし費用之〜人夫又怠り〜功成る程に
り〜小何まともなく英女一人あり〜多方勸化〜人夫を募り〜
小不目り〜て成功を得此女最ふ来り〜夕去き行方と不知功成
の後再来り〜す衆もな怖めて観音の化身あり〜さけ此奉り〜
似〜る〜

夫より吹上の子をり〜ふり〜し〜な〜し〜
も仍〜佳丸の系この妻は新産係赤塚佳丸四村より〜戸田此
川流やく〜さ〜ふけ地有るた〜あ〜んも〜一四〇ある後程水有
不〜も有〜三〜斗の芽生〜る。巨入の地の中廣き本六七八斗長サハ
教十町ふ〜る〜。目の隈へ後〜る。此系を横切〜り〜れを本流の
後〜
こ〜ま〜て〜吹上り
は〜揚小氏ア二軒あり〜あ〜く小塚小後れは向い
もも氏家四五斗も〜こ出〜あれて又系有り。若の佳丸の系小あ形〜
芽系のは入〜く〜あ形を印〜はは四斗〜て一人の性来あ〜る
系を仍る〜七八斗あり〜川除の境あり〜このつ〜三斗田の上も

上赤塚村
山口東北
西田望方
位畧面

ツルシ坂ノ上ヨリ
見渡シタル畧也



北

重考
千葉胤直ハ上杉憲實ニシテ持氏公ニ敵對ノ者ナレ成氏公
録倉ノ御所ニ歸リ賜フ時先兆ヲ悔テ眠近シケルカ享徳四年
胤生一族ノ四城寺ト野ノ高住カ勸ニ依テ上杉入道性順ニ
一味ニ再成氏公ニシテ其家臣原越後守胤房同筑後守
胤茂ハ成氏公ニ屬シテ同年三月廿日俄カニ千葉城ニ押寄テ
追落ス胤直父子敗レ同國多胡志テ兩城ニ退ク古千葉大助
滿胤ノ二男馬加陸奥守康胤入道幸種_{下總馬加}原越後守
相加八月十二日多胡城ニ押寄千葉新分胤直ハ服ヲ切セ同十
四日志テ城ヲ拔テ胤直入道常時舍茅中務入道ヲ心腹切
セケル馬加ハ知本家ヲ没倒シ嫡孫ヲ千葉孝胤ト稱シ千葉
ノ城ニ居置原ハ主ニモ増タル大身ニテ小金ノ城ニ居ルハ胤直
ノ一族東下野守常縁京都將軍ノ命ヲ受テ上杉ヲ救成
氏ヲ誅伐スキ由ニテ坂東ニ下リ馬加ノ城ヲ攻メキケレハ端城ハ常縁
落ス常縁ハ東ノ庄ノ入部ニシテ二総ノ乱ヲ鎮シトス千葉中務入道
ヲ心腹子實胤自胤直ニカヲ得テ市川ノ城ニ有篁リ本領ヲ再
復セントスル處ニ成氏ノ爲ニ市川ノ城ヲ落サレテ實胤ハ武石濱
ノ城ニ落行自胤同國赤塚ニ移リケル
右之趣武家閑談ニ載
此通リナレハ赤塚ノ城山ハ自胤カ古跡成ヘシ

四



水に流るるに河も水もみりて草生の是入を竹上うてハリリ
 あゆむい境の上を歩行する多十四五丁にありてありつるは吹上
 山遙一里斗の西よりつゝいなる河に小住するに河に
 戸田 早瀬の傍より橋の上 中仙居たりてふるもふんぐり少く境の上を竹を
 場へあやぐ版あきながら家なり休む夕けをりめをくれハ日已む
 れつゝつをきく繩をたくりた者巨入房生の系之志村の系より
 妻極帯あましくつ小生と云又の道は梓村あるに商人の刈斗と
 たり板橋をさ鶏妻を産く棠鴨稻荷の種をやつ小叫ゆるハ
 其時をとりていふてふるをいふに村の末に産むありし

新曹
下道
記別

戸田より中仙居をまたいりて新宮と云津舟と不法者の一宮を
 の同條畑秀延の初めをいせしむる

戸田より末に一里より平系河ゆりて川口善光寺より武原小麻呂多
 りる今日、啼きと叫ぶて
て脱

戸田の傍に橋の西側小羽黒山を移す社ありを神本はは木
 の十石ありて海を越え人の信をりて産婦は後やむれを千と
 一も産産した依りて小系子のいふにありて人なり

此種
大堂

武州豊嶋郡赤塚 泉福寺
真福寺 西寺
 鐘銘

鷲沉潛之幽蟄。破衆生之大夢。莫先於鐘也。武州豐鴻彼兩寺者。前朝全盛之時所建。具體古招提也。獨欠巖窟之器。可謂缺典矣。今快賢阿闍梨。幹衆緣鑄。厥志勤矣。若夫豐嶺霜降。祇園月明。揚音於大千沙界。傳益於未末無窮。命中岩銘。銘曰。

武之豐郡 州之重鎮 崇之福山 哀我彥俊

鳧氏范鏞 以落以鑿 大扣大鳴 鯨吼霆震

啓昏迪迷 遐通咸進 却石有消 法音無盡

曆應三年_{辰庚}四月初八日筆執三位親度

大工平次五郎行次勸進沙門右部阿闍梨快賢

謙倉志三建長寺ノ條三梅洲菴佛程慧濟禪門_師諱圓月号中岩嗣

法東陽當山四十二世永和元年正月八日示寂世壽七十アリ

右南畝筆記中鈔出

後山遊苑
 寺と云寺
 山社
 山社

石神井の尾

文政三の春三月廿一日申石神井村に毎時をふすそりや
 船と申すのありは是かやとて路をんゆりてふふり
 と申すはふりてふふりてふふりてふふりてふふり
 けと上板橋かたより西のふりては古皆橋と柱並に柱の
 口よりある地とてか板をとりては古皆橋と柱並に柱の
 又小坂をとりて又田なり

古田村より田中乃たれかふりては古皆橋と柱並に柱の

万れ六好
 神君兼
 初基に
 歌小
 二神之恩
 玉飛改
 の外に
 今も
 阿ま
 びや
 びや
 と
 と
 と

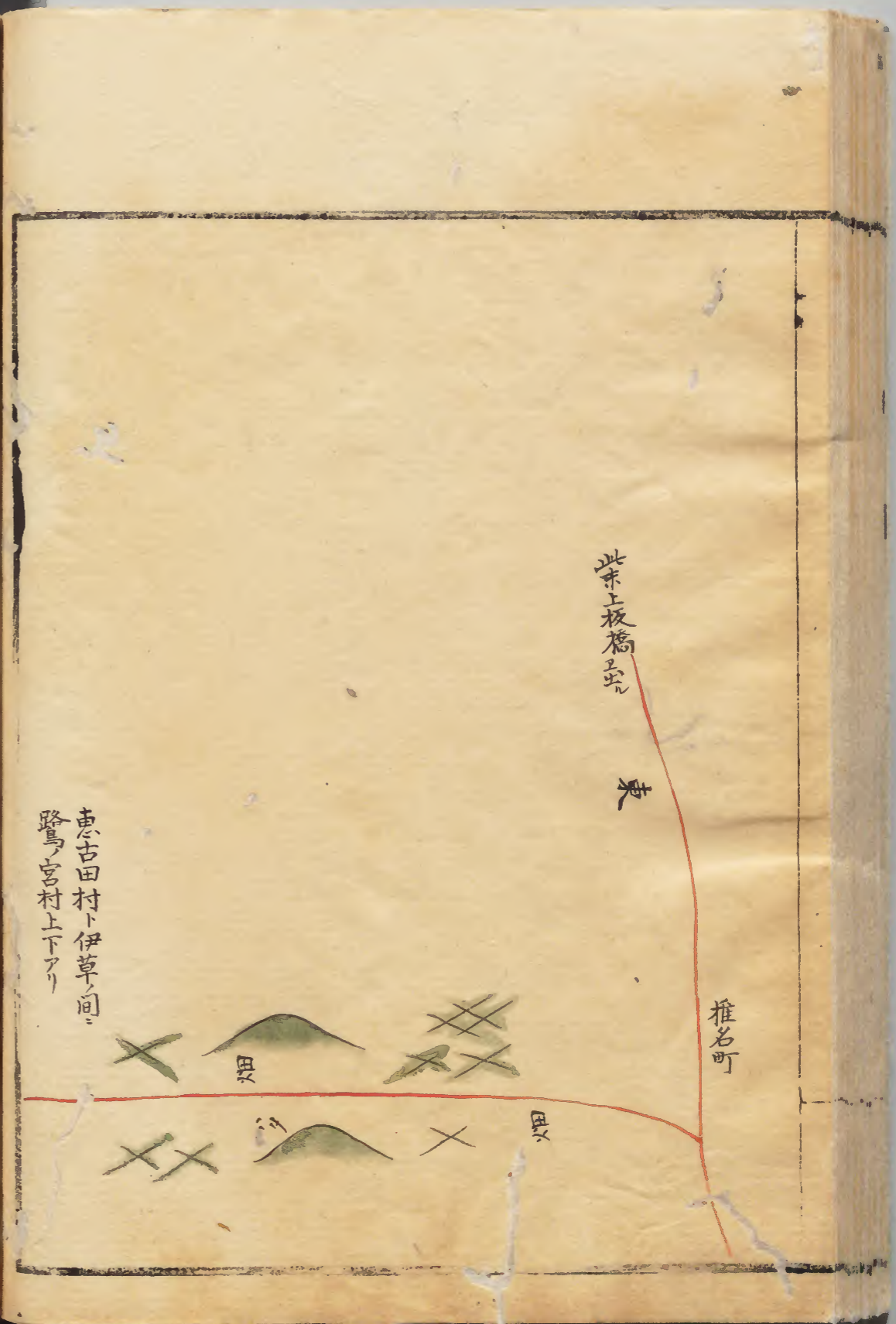
ねと云まう今ま近柳家
 三枝を主膳恒例す
 城といひし人
 ガ上る
 と云
 是
 物
 之
 烟

文村
 警
 病
 風
 伊
 昨
 之
 之
 之
 石

石
 之

言ひし場の名の先ふれいりこみ傍や六を頼れまう直路に
はたけの鼓木ありけり

推名町よりまなすり三寶寺田
むら畧園之



藤編荷小中一 道くは
 文政七年甲申九月十二日



夫会武源武苑新田用水の体立関村一川に三上松長寺
 寺上松長寺の四つ処に玉川上水が如き寺上松長寺の
 寺上松長寺の考不松長寺の信徳寺苑新田用水の三上松長
 寺上松長寺の時分は

此屋鋪水野執政セテ後幾程アリ
 テ井伊掃部頭買取テ猶地ヲ廣ク
 圍入テ下屋鋪トス



落合村の七曲り小幡字小幡と志とを予うくせむもむがわりの
 口僚畑秀え乃しひもつりう十^あまうめと係そうれ者とを
 故多量け小幡波の流れくあまきを宛とて是をわつ時のい海
 とも^あつひまをさつてやん若き時口と信めふを勤小つり志とを
 今を業しとて公成を以し流るるをんを業しとて
 移りてあふもまはしほあふをんを業しとて
 今まふんははるるをんを業しとて
 今まふんははるるをんを業しとて
 今まふんははるるをんを業しとて

けきふの結ゆの物こゝれをえんく懐旧乃懐懐くめて
旅々も於社紙をくれあめす

秋の月 ありまゝまつあつても

秋の月 人れんのうり

りあり 登のあまの

あふ下未紀元 勝月十二



